

今週（5月25日から5月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は、週初418兆円程度で始まり、各種の金融調節・新型コロナ対策関連の払いといった要因によって大幅に増加し、29日には427兆円程度となった。無担保コールO/N物は、業態によって調達姿勢の違いが見られ、レートは低位で推移した。引き続き、地銀業態では新型コロナに係る給付金の影響からか、ビッドが大幅に減少し、一部ではマイナス金利適用を回避するため、オファーサイドに転じた先も見られた。一方で、新型コロナ対応金融支援特別オペによってマクロ加算残高に余裕が出来たと見られる先が調達の下支えとなったことで、レート自体は比較的安定して推移した。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.06%前後で推移したが、月末29日はビッドが減少したことで、▲0.07%台まで低下した。ターム物は、地銀業態を中心に運用ニーズが強く、下限レートを模索する展開となった。

26日には、新型コロナ対応金融支援オペが3M物でオファーされ、17,292億円の貸付が行われた。同オペの残高は27日時点で143,905億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲0.120～▲0.065%程度で推移した。週初25日のGC T/Nは、▲0.080～▲0.065%程度、26～27日のT/Nは▲0.105～▲0.080%程度で推移した。月末初物となる28日のT/Nは▲0.120～▲0.095%程度、短国や2Y債の発行が重なる29日のT/Nは▲0.090～▲0.065%程度で推移した。

SCは、個別銘柄では2Y407～412、5Y139～143、10Y338～358、20Y169～172、30Y59～66、40Y11～12等カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、増発により需給が徐々に悪化していることから、3M物は、▲0.120～▲0.115%出合いと、やや軟調に推移した。一方で、オペ増額期待などもあってか、6M物は▲0.200～▲0.194%、1Y物は▲0.200～▲0.195%出合いと、どちらも堅調に推移した。

26日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円増額の20,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差0.000%と、しっかりした結果となった。

27日に実施された6M物の入札は、期落ちがない新規の発行であったが、WI取引において▲0.150～▲0.145%で出合中、平均落札利回▲0.1627%、按分落札利回▲0.1607%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.194～▲0.182%出合いと強含みで推移した。

29日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.115～▲0.110%で出合中、平均落札利回▲0.1078%、按分落札利回▲0.1002%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、目立った出合いはみられないものの、やや軟調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は月末週であったものの、多くの企業が前倒しで調達をしていることもあり、償還総額1兆1,000億円程度に対して、発行総額9,000億円程度と償還超のマーケットとなった。月末発行を中心に、鉄鋼・商社・機械等幅広い業態が大型の発行を実施した。市場残高は週を通して24兆円程度の水準で推移するなど、先週末の23兆円台後半から着実に増加している。発行レートについてはCP等買入オペ見合いのニーズからか、大半の銘柄が若干のマイナス圏で推移し、特に発行残高の少ない希少銘柄に関しては強めの買いも見られた。

26日にはCP等買入オペが事前予定通り8,000億円で実施された。5月22日の臨時の金融政策決定会合にて、新型コロナ支援オペの期限が半年間延長されて21年3月末までとなったことで、按分レートの低下が予想されていたが、玉の入替ニーズが先行したためか、結果は、応札額が1兆9,452億円と過去最高額に達し、平均落札レート▲0.02%、按分落札レート▲0.027%と前回（平均▲0.027%・按分▲0.068%）から平均・按分ともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/25（月）	20,741.65	0.000	107.68	△ 0.059	△ 0.078	4,180,700
5/26（火）	21,271.17	0.000	107.75	△ 0.060	△ 0.092	4,206,800
5/27（水）	21,419.23	△ 0.003	107.52	△ 0.059	△ 0.099	4,242,000
5/28（木）	21,916.31	△ 0.005	107.87	△ 0.057	△ 0.113	4,252,100
5/29（金）	21,877.89	0.000	107.14	△ 0.073	△ 0.073	4,271,400

来週（6月1日から6月5日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/1 (月)	1-3月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)				4月の米建設支出 5月のISM 製造業景況指数
6/2 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 5月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 6/3発行			
6/3 (水)	6月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				4月の米製造業新規受注・出荷・在庫 5月のISM 非製造業景況指数
6/4 (木)		30Y 7,000億円 6/5発行	交付税借入 21,000億円 6/12借入		ECB定例理事会(金融政策発表) 4月の米貿易収支
6/5 (金)	4月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 4月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 91,400億円 6/8発行			5月の米雇用統計 4月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/1 (月)	▲ 100	▲ 76,000	▲ 76,100	国債買入 国債補充	100	8,700	8,800	▲ 67,300	機関貸付回収 TB3M発行▲81400償還43100 TB6M発行▲25000 2Y発行▲20000償還14800
6/2 (火)	1,000	▲ 18,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	税揚げ前倒し
6/3 (水)	1,000	▲ 66,000	▲ 65,000	貸出支援	▲ 6,100	2,000	▲ 4,100	▲ 69,100	普通交付税 年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 10Y発行▲21000
6/4 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	
6/5 (金)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	30Y発行▲7000
週間合計	1,900	▲ 160,000	▲ 158,100	—	▲ 6,000	10,700	4,700	▲ 153,400	

6/1は日銀予想、6/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新型コロナ対策の払いが6月にもあると見込まれることから、無担保コールO/Nは引き続き低位での推移が予想される。レポ市場は、GC T/Nは▲0.10%を上回っての推移が予想される。短国市場は、5日に3M物の入札が実施予定となっている。短国が増発される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、4日にCP等買入オペが6,000億円で実施予定となっている。発行レートが浅いマイナス圏で推移している中、26日のオペの結果を受け、按分レートがどの程度で決着するかが注目される。

主要なイベントとしては、海外では4日にECB定例理事会、5日に5月の米雇用統計等が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入